



令和5年(2023年)第36週 2023年9月4日(月)~2023年9月10日(日)

熊本市 感染症発生動向調査 速報



●腸管出血性大腸菌感染症について

9月に入り、熊本市内で2件の腸管出血性大腸菌感染症が報告されています。

◆どんな病気？

ほとんどの大腸菌は人や動物などの大腸に生息し、通常は害を与えません。しかし大腸菌の中には食中毒などの原因となるものがあり、これらを総称して病原大腸菌と呼んでいます。病原大腸菌の中には、O157・O26・O111などのように、腸管内でベロ毒素という出血性下痢などの原因となる毒素を作るものがあり、それらを「腸管出血性大腸菌」と呼びます。

・**症状**……激しい腹痛、頻回の水様性の下痢や血便などを起こし、乳幼児や高齢者では重症化しやすいといわれています。また、溶血性尿毒症症候群(HUS)や脳症などの重症合併症を起こすことがあります。

・**潜伏期間**……多くの場合3~5日

・**感染経路**……菌に汚染された食品を介する経口感染または患者の便を介した二次感染。感染力が強く、50個程度の菌数でも感染します。

そのため、入浴やタオルの共用、トイレの取っ手などに付着した菌によって、家族内で二次感染を起こすことがあります。

・**流行期**……年間を通じて発生しますが、特に夏季に多く報告される傾向があります。

◆予防のポイント

食べ物の取り扱いと正しい手指衛生です。

・食品を十分に加熱し、生野菜などはよく洗いましょう。

(腸管出血性大腸菌は75℃で1分間以上の加熱で死滅します。)

・生肉を扱った調理器具は、洗って熱湯で消毒してから、別の調理に使うことが大切です。

・二次感染を予防するために、トイレの後や食事の前には石鹸と流水で十分に手を洗いましょう。

・患者のお世話をする方は、使い捨て手袋を使うなどして便に直接触れないようにしてください。

なお、便の付着した衣類は、他の人の衣類と別に洗濯するようにしましょう。



厚生労働省ホームページ
「腸管出血性大腸菌感染症
Q&A」



定点 種別	期 間	2023年 35週		2023年 36週		
		8/28~9/3		9/4~9/10(最新)		
疾患名	疾患の増減	報告数	定点当り	報告数	定点当り	
C I O V I D E N - 1 9	インフルエンザ	↑	33	1.32	128	5.12
	新型コロナウイルス感染症(COVID-19)	↗	320	12.80	369	14.76
小 児 科	RSウイルス感染症	↘	20	1.25	16	1.00
	咽頭結膜熱(プール熱)	→	11	0.69	10	0.63
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	↗	29	1.81	39	2.44
	感染性胃腸炎	↘	46	2.88	42	2.63
	水痘(みずぼうそう)	→	1	0.06	0	0.00
	手足口病	↗	55	3.44	59	3.69
	伝染性紅斑(りんご病)	→	0	0.00	0	0.00
	突発性発しん	↘	13	0.81	11	0.69
	ヘルパンギーナ	↘	44	2.75	30	1.88
	流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	→	2	0.13	2	0.13
眼 科	急性出血性結膜炎	→	0	0.00	0	0.00
	流行性角結膜炎(はやり目)	→	3	0.60	3	0.60
基 幹	細菌性髄膜炎	→	0	0.00	0	0.00
	無菌性髄膜炎	→	0	0.00	0	0.00
	マイコプラズマ肺炎	→	0	0.00	0	0.00
	クラミジア肺炎(オウム病を除く)	→	0	0.00	0	0.00
	感染性胃腸炎(ロタウイルス)	→	0	0.00	0	0.00